談話室

いのちと暮らしを守る協同の取り組みにむけて
──生協組合員の雑談から、「水」の学習会へ──

先日、地元(長野県佐久市)の生活協同組合の組合員仲間での雑談の際、「水、大丈夫ですかね」という話題になった。昨年12月に国会で可決となった水道法改正を受けての不安だ。組合員の中には、小さい子どもさんを持つ若い世代も多く、食や農、そして最近では水についても情報交換が盛んだ。

私自身は、十数年前から学生たちと無農薬・無化学肥料のお米づくりを始めて以来、水に関心を払ってきた。学習活動の一環で、大学(山梨県都留市)の近くの町の中にある田んぼをお借りしてきたのだが、構造上、どうしても生活雑排水が混じる。一度は機械油のようなものも少量だが流れ込んできて、唖然とした(都留市の十日市場・夏狩湧水群は環境省の名水100選に採択されており、水質やそれを保全する住民の取り組みもあって、水への関心が高い地域だ。それでも水を守るのは容易ではなく、だからこそ市民活動も活発だ)。

田んぼの水は、スーパーの商品棚に並ぶペットボトル入りの水と違って選べるわけではない。むろん浄水器を設置するわけにもいかない。私たちが享受する水は、水源や上流のあり方に大きく規定されているというごく当たり前のこと、同時に、だからこそ、自分たちより下流の水に対しては、自分たちが大きく責任を担っていることも、毎年痛感させられている。そんなこともあって、上下流の交流や流域全体の連携の大切さはもとより、そこに公共のみならず、協同組合はじめ多くの市民組織が関わって貴重な役割を果たしてきたことも、学生たちとともに学んできた。

しかし今回の水道法改正に際しては、そうやって保全の努力を重ねながら守ってきた社会的共有財産(コモンズ)である水が、コンセッション方式の導入によって、営利主義的な論理に巻き込まれかねないのではないか…そうした危惧が広がりつつある。これが「杞憂」なのか否か、すべての人のいのちに直結する問題でもあり、多くの人が法改正の意味を見極めたいと願っている。

私たちも、先の生協組合員どうしの雑談を発端にして、ギリシャの映画監督の手によるドキュメンタリー『最後の一滴まで──ヨーロッパの隠された水戦争』(日本語版制作アジア太平洋資料センター)の上映会を開催した。いつもは十名ぐらいしか集まらない学習会だが、今回は二十名の参加だった。同映画を見ると、水

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

の民営化（コンセッション方式含む）がもたらした帰結とそれを受けての、「再公営化」の取り組みが詳細に描かれていて、日本の今後を考える上できわめて示唆的だ。会場からの声で、今後も自分たちの住む自治体や、近隣自治体の水道事業について、見学や学習会を重ねることとなった。

私が研究対象としているイタリアでも、2011年６月、水道事業民営化を阻止する国民投票が行われた。当時、国民投票のテーマとなった課題は四つ、うち一つは原子力発電所を止め続けるか否かで、日本でも活発な報道がなされたが、四つの課題のうち二つが、水道事業関連法の賛否を問う投票だった。やや細かくなるが、一つが「水道事業民営化に関わる法律の廃止」の賛否、もう一つが「水道事業利益処分と料金設定に関わる法律の廃止」の賛否だ。特に二つ目はわかりにくいが、投資者への配当を水道料金に反映することを可能とするかを問うたものだった。

イタリアでは、原発再稼働については、一貫して世論は反対ではあったが、日本の原発事故を受け、その反対運動は一層高まった。だが、それ以前から長年問題視されてきたのが水道事業の民営化で、市民らが粘り強く「水の権利運動」を展開してきたという。

投票率６割を超え、なんと15年ぶりに成立した国民投票の結果はどうだったか。水道事業民営化を促進する二つの法律とも、投票者の実に96%が「廃止」を支持した。ちなみに「水道関連法の廃止」支持率は、「原発再稼働承認法の廃止」支持率よりも２%上回っており、いかに、水の権利に対するイタリア市民の関心が高かったか、あらためて確認できよう。

私たちの社会に目を戻したい。自由化や規制改革、成長産業化の名のもと、2000年代からの共済規制や農協「改革」を経て、この２年ほどでTPP、EPAと地続きの制度改正が一気に押し寄せ、私たちのいのちと暮らしを支える公共的領域の市場的再編が大々的に進行している。水道事業に限らず、種子法（廃止）、種苗法（自家採取に関わる原則の転換）、漁業法、森林経営管理法等、いのちと暮らしの源に関わる領域での、大きな枠組みの改変を、いのちと暮らしを預かる協同組合陣営は、どう受け止め、行動するべきなのか。

まずは、冒頭に述べたような形で、地域の仲間と小さな学習会を重ねるところから考えていきたい。

（日本協同組合学会 会長・農　田中夏子・たなか なつこ）

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/